

震災から1年を覚えて

2012年3月11日(日)、あの東日本大震災から1年が経ちました。現地では、震災から1年を覚えて様々な礼拝や祈り会が行われました。全国の皆様が現地の祈りに様々な形を合わせてくださっていますことを心から感謝いたします。現地での3月11日の様子、震災から1年を覚えながらの活動の一部をご報告します。

☞ 仙台教会での三・一一追悼と黙想の集い。宗教を超えた市民集会となり、多くの方々と祈りを合わせました。



☞ 郡山教会での三・一一追悼礼拝。ロウソクの光の中で現地支援委員会作成の祈りが祈られました。



☞ 吉岡伝道所の3.11礼拝。ジョージア州からの方々と。この1年、宣教団の方々とも協力の絆を強められました。



☞ 南光台教会の3.11集会。1年前に避難所となった会堂で共に生活した地域の方々が集まって下さいました。



☞ 大富教会の3.11礼拝。聖歌隊による讃美の様子。主の先立ちと執り成しに支えられた1年に感謝しながら。



☞ 仙台北教会の3.11集会。礼拝後に、地域の方々と共に写真を通して1年を振り返り、祈る集会をもちました。



☞ 3/10(土)には、宮前仮設住宅、牡鹿半島荻浜/給分浜などの仮設住宅1戸1戸にメッセージ付のお花をお持ちしました。



☞ 仙台北教会では3/10(土)に宮前仮設住宅を訪問し、震災から1年をも覚えて小礼拝を行いました。讃美歌を歌いながら涙を流す方が何人もおられ、1年では到底区切りがつかない痛みを改めて思われました。



☞ 南光台教会では、三島教会から「キバナコスモス」の種を被災地のために頂いたので、そのいきさつと栽培方法を記したものと種を小分けし、亘理/牡鹿支援に用いていただきました。



☞ 三月十日に、郡山教会は縁ヶ丘仮設住宅にお花を配りに行きました。震災から一年経つても、未だ原発事故は収束しておらず、先行きの見えない状況が続いています。これからも祈りに覚えていたいと思います。



☞ 盛岡では3.11に消灯して過ごすキャンドルナイトが行われました。写真は市内の公園の様子。



☞ 3/10(土)の牡鹿支援。吹雪の中、仙台地区から沢山の方がボランティアに参加し、お花と野菜をお届けしました。



3.11まで、そして3.11から…



東日本大震災から1年が経ったとは言え、沿岸部には「何もない」景色が静かに広がり、課題は深刻です。それでも現地では一歩ずつ歩みを進めようとしています。支援内容も、緊急のものから、人と人のつながりの中で「支援者」「被災者」の壁を越えた関係の構築へと移り変わってきました。現地の教会では、今日も主イエスの先立ちを信じて活動を続けています。



現在の沿岸部。左は宮城県亘理町「鳥の海」の様子。右は岩手県野田村の瓦礫置き場。分別されて八戸で処理されます。気の遠くなる作業です。

津波の大きな被害を受けた岩手県大槌町。新たな街作りへ。



石巻市牡鹿半島給分浜での支援活動の様子。子どもたちには駄菓子屋さん、「玉こんにゃく」も振る舞いました。お店が近くにないため、月に1回、仮設住宅と在宅の方に野菜をお届けしています。左の写真は、牡鹿半島小湊浜にある塩蔵わかめの加工場の様子。わかめは今が最盛期で、浜全体が緊張感に溢れ、活気ある空気に満ちていました。



福島緑ヶ丘仮設住宅での歌声喫茶の様子。後ろではマッサージも。



アジア女性連合の方々が岩手県沿岸地域視察に来られました。



岩手県安渡小前仮設の集会所にて、写真立て作りのワークショップを行いました。手作業をしながら、会話も弾みます。



野田中仮設住宅にて、有志の方たちが集まって製作している小物を見せていただきました。かわいいものばかり！この活動も始まったばかり。一步一步ですね。



岩手県泉沢地区農村公園仮設集会所でのお茶の様子。



津波の被害に遭い、現在は使われていない長瀬小学校(亘理町)の花壇にチューリップが顔を出していました！



岩手県野田村仮設集会所にて。函館美原教会の青年と少年少女が、子どもたちと一緒に楽しく遊びました。



石巻市の中心部には、仮設の商店街ができました。



石巻社会福祉協議会の牡鹿半島担当者と情報交換をしました。他団体との協力によって活動が進んでいます。



石巻牡鹿半島には小さな仮設住宅が点在しており、まだまだ支援の手が十分に届いていない場所もあります。



2012年4月に仙台教会で行われた現地支援委員会の様子。東日本委員会（前：災害対策本部）の皆さんも参加してくださり、1年を振り返りつつ、支援の課題やこれからの歩みについて話し合いました。

ご支援に心から感謝いたします！

現地の教会のこのような活動は、主の導きと、国内、国外の皆様の熱いお祈りと献金、ご支援によるものです。皆様のお支えに心から感謝いたします。震災から1年ですが、まだまだ課題は多く、継続した支援の必要性が高まっています。どうか引き続きお祈りとご支援をお願いいたします。

また最近、被災された方々が私たちに様々な贈り物をくださるようになりました。現地の教会が代表して受け取っていますが、この贈り物は全国の皆様のご支援にも感謝して贈られたものですので、一部ですが以下にご紹介します。皆様のお祈りとお支えに心から感謝して。



北海道からのお米支援。その他にも沢山の教会からご支援をいただいています。感謝！



女性連合「あいあいプロジェクト」からの贈り物。大変喜ばれています！

感謝の想いを込めた、宮城県戸倉小学校作成のカレンダー。



福島緑ヶ丘仮設住宅の方から、いただいた手作りのバッグとティッシュケース。



牡鹿半島荻浜家ノ入仮設住宅の方が、支援で届けた布で作ってくださった人形。



牡鹿半島給分浜の女性から大富教会に送られてきたもの。これまでのボランティアと現地の方の交わりの様子が写っています。浜の皆さんの笑顔とともに感謝の言葉が添えられています。



盛岡のママ友ボランティアが「ハートプロジェクト」のプレゼントを安渡仮設住宅に届けるため準備している様子。



亶理町宮前仮設住宅の手芸部の方からいただいた、亶理名産のいちご型のたわし。



ミシンをお届けした時の写真。「これで手芸部のメンバーも増えるかも!？」と喜んでおられました。

◆今号に掲載していない被災県内の教会・伝道所の様子も、次号以降、順次お知らせしていきます。